

東亜グラウト工業 東北初のアイスピグ 管内洗浄工法を実施 宮城県登米市と大和町で

東亜グラウト工業は、東北地区では初となる「アイスピグ管内洗浄工法」による下水道圧送管の洗浄を9日に宮城県登米市、15日に同大和町で実施した。

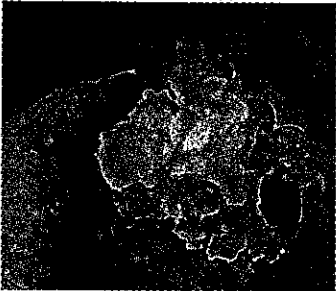


洗浄水回収地点での作業の様子

(きよつちがこ)をシャーベットの中に包み込んで排出する。また、従来工法では除去が難しかった伏越部や曲がり・管径の変化にも対応。一度で長距離の洗浄が可能なることから、断水時間を短くできる。

今回は、市町村の下水道担当者や給排水工事会社など登米市で約50人、大和町で約30人が参加した。

9日に実施された登米市では、同市津山町横山にある「道の駅・津山もくもくランド」の敷地内のマンホールから約4・4メートルのアイスシャーベットを注入。管径150mmの下水道圧送管(鑄鉄管)を通じて、3.98・9リットル先にあるマンホールからアイスシャーベットを回収した。洗浄に要する時間が非常に短い



下水管に投入するアイスシャーベット

が特長で、現場では回収口まで約30分でアイスシャーベットが到達し、その洗浄効果を参加者は体感した。

発注者の登米市建設部下水道課の担当者は「横山地区の下水管が閉塞気味であったため、洗浄の検討をしていた時に、アイスピグ工法が存在を知った。圧送管で距離が長く、伏越部もあることから、短時間で洗浄できるということで今回採用してみたところ、予想よりも汚れが取れて、(管が)きれいになった」と感想を話した。

15日には、大和町鶴巣幕柳十王沢地区でも下水道圧送管(管径100mm、延長約900m)の洗浄が行われ、同様の洗浄効果が確認された。